



BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 30 号

平成 28 年 9 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

03-3918-7311 (代)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

新しい波に包まれて

人間学部 教育人間学科 教授
地域創生学部 参与

山本雅淑

地域創生学部が開設されて半年になる。一期生が、9 月から全国 7 箇所の地域に入って 1 か月半の実習プログラムを行なう。実習により学生がどれだけ成長するのか、学部参与として大いに期待するものである。

さて、拙稿を準備するに当たって、当学部の設置趣旨書を改めて通読した。そこには「現在の日本が抱える最大の社会的課題である地域問題を解決し、これからの地域を担う人材を育成する」とあり、「地方出身学生は地方地域の活性化に貢献する人材として地域への回帰を促していく」とある。つまり、学部の目的は地域を活性化させる人材の育成にあり、地域に産業を起こしたり特産物を開発し

たりすることを考える学部ではないということ。地方の未完の人材を本学で 4 年間学修させ、力を付けて地方へ回帰させるという設置の趣旨である。

地方の衰退は、土地を活性化させる“ヒト・モノ・カネ”の減少から始まるといわれているが、まず地域にヒトが住んではじめてモノとカネが生まれてくるものである。現在、都市部の大学で地域活性化を謳った学部が多く増設されているが、はたして学生は卒業後地方へ戻るのか、そのまま都市部に職を探し住を構えるのではないか。地域活性化という大義名分の下に地方から若者を引き抜く。本末転倒と言わざるを得ない。

では、本学はどうか。設置趣旨書

に話を戻そう。その 1 頁目に、大正大学の理念と沿革として「設立以降、大乗仏教精神を体現する多くの人材を長年にわたって社会へと送り出してきた」とあり、「90 年にわたって寺院子弟を全国各地から集め、また自坊に帰す教育を」とある。そう、長きにわたって、大正大学で宗門教育を修めた全国各地のお寺の子弟が自坊に帰って、地域を支える宗教活動を実践してきた。お寺が地域の拠点として見直されている中、これこそ地域活性化活動といえないだろうか。

今、大正大学は、地域創生学部を突破口に建学の理念を実践しようとする新しい波に包まれている。

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：BSR トピックス
- 4 頁：さざえ堂だより / 今後の予定

BSR トピックス

～大正大学の仏教に関する研修と行事について～

大正大学では、夏期休業期間中、仏教学科の学生以外でも受講できる3つの仏教研修があります。また9月以降に行われる、どなたでも参加できる仏教にかかわる行事・講座についてご案内します。



■夏期仏教研修道場〈比叡山延暦寺居士林道場〉

天台宗の総本山、比叡山延暦寺にある居士林で行われる研修道場です。今年は8月21日から24日の3泊4日、男女合わせて26名の学生、6名の教職員の引率・指導により開催されました。

大正大学の当研修道場は、昭和51年から続いている伝統ある研修です。宗門所属以外の学生が増加してきた当時、それら学生の仏教の実践研修の機会を希望する声に応え開設するに至りました。

居士林ではピーンとはりつめた空気の中、食事作法、作務、坐禅止観等を行います。行住坐臥（歩くこと、とどまること、座ること、寝ること）、日常すべてが修行であると捉えます。



〈非食（夕食）〉

そして比叡山のもっとも特徴的な修行とも言えるのが「回峰行」です。午前3時から比叡山の山中を一步一步歩くことに集中して20キロ以上歩きます。延暦寺居士林は、広く一般の方を受け入れている道場です。修行僧ほど本格的ではありませんが、本学の研修道場は、一般の研修より本物に近い、大正大学ならではの修行体験です。

非日常の空間で体験する当研修の厳しさに、参加者は、初め一様に戸惑います。しかし終わった後の達成感はい他では味わえないと口々に言います。



〈暗闇の中、回峰行に出発〉



〈回峰行中、
比叡山から見る琵琶湖〉

■夏期仏教研修道場〈長谷寺道場〉

夏期にもう一つ行われる研修道場は、真言宗豊山派の総本山長谷寺、真言宗智山派総本山智積院、浄土宗総本山知恩院の3つの総本山を道場として、毎年、順々に行われる研修道場です。

こちらは居士林道場よりもさらに古く、昭和40年に東京の九品仏（浄土宗）で行われた「女子学生実践仏教」を源流としており、昨年度までは「女子研修道場」として女子のみで開催していました。

本年度からは男子も参加できるようになり、8月25日から28日までの3泊4日、真言宗豊山派の総本山、奈良県桜井市の長谷寺で開催され、男女合わせて25名の学生が参加し、9名の教職員が同行しました。



〈長谷観音様の御足をいただく〉



〈献灯式（キャンドル巡行）〉

長谷寺でも早朝より、勤行、作務、講話、数息観（坐禅）、食事作法等の参籠修行を行い、併せて3日目には「古寺巡礼」ということで、飛鳥寺・岡寺・室生寺を参拝しました。

また「献灯式（キャンドル巡行）」、観音経の写経、観音菩薩の写仏など、長谷の観音様に祈りを捧げる時間もたくさんありました。

奈良という歴史ある地で、その文化と信仰に触れ、また日常を離れて山内生活を送ることは、自分自身を見つめる良い機会になったと思います。

■ 古都仏教文化研修

3 つめが、「古都仏教文化研修」（仏教フィールドワーク）です。大学を離れ、各地の仏教寺院をはじめとする文化財や遺跡・歴史的建造物をめぐり、仏教の歴史的な展開や信仰の姿に直接触れ、各自の関心事項について考察を加えることを目的としています。

第 12 回を数える今年度は、8 月 29 日から 31 日の 2 泊 3 日で、長野方面に行きました。

朝 8 時に大正大学を出発し、まず上田市にある信濃国分寺を訪ねました。当寺は、本学学長補佐・仏教学科教授 塩入法道先生が住職を務める寺院です。NHK 大河ドラマ「真田丸」で盛り上がる上田の歴史の息吹を感じながらのお参りとなりました。



信濃国分寺>

午後は善光寺を参拝しました。善光寺も本学設立宗派の天台宗の大勧進と浄土宗の大本願が寺務を執行するご縁の深い寺院です。善光寺の宿坊である本覚院、長養院に宿泊、夕食後に本学講師でもある本覚院の小林順彦住職に善光寺の歴史・信仰についてお話を伺いました。



<善光寺>



<宿坊・本覚院>

2 日目は戸隠神社参拝です。古くは修験道の道場として名高く、江戸時代には上野の寛永寺の末寺でした。明治になり、神仏分離政策で寺は廃され、戸隠神社として現在に至っています。

最終日の 3 日目は、諏訪大社ならびに神宮寺跡、そして旧神宮寺の仏像等が移転された仏法紹隆寺等を参拝しました。ここでは最近修復された普賢菩薩像を特別に拝観することができました。寺院と神社の密接な関係を再認識し、改めて日本の文化・歴史に寺社が深く関係してきたかを感じたと思います。

古都仏教文化研修には、学生だけではなく、大学院生、学生の父母、一般の方も参加できます。

当研修は、仏教学科の威信を掛けて先生方のご縁、お持ちのコネクションをフルに活用してご調整いただいていますので、普段、一般の拝観では見られない場所、モノを特

別に見せてもらえたりします。大正大学ならではの体験プログラムです。

大正大学は、TSR（大正大学の社会的責任）を果たしていくことを宣言しています。その 5 つの社会的責任の一つが「ミッションに基づく学風の醸成」です。こういった研修を通じて、仏教精神が自然と身についた学生を社会に送り出すこと、また一般の方にもこういった機会を提供していくためにもこれからも続けていきたいと思ひます。

■ 9 月以降の一般の方も参加できる仏教関連行事

今秋以降、一般の方も参加できる大正大学の仏教関連の行事・講座等をお知らせします。是非ご参加ください。

・花会式

さざえ堂のご縁日、本学関連宗派が持ち回りで法要・法話を行います。 ※各日 11 時から 12 時まで

9 月 17 日 (土)	真言宗豊山派
10 月 22 日 (土)	浄土宗
11 月 12 日 (土)	5 宗派合同 菊まつり法要
12 月 17 日 (土)	天台宗
1 月 21 日 (土)	真言宗智山派
2 月 18 日 (土)	浄土宗
3 月 18 日 (土)	春休み特別法要

・水曜礼拝

礼拝堂で、本学関連宗派が持ち回りで法要を行います。

※各日 12 時 30 分から 13 時まで

10 月 5 日 (水)	天台宗／法華懺法
10 月 12 日 (水)	真言宗豊山派／二箇法要
10 月 19 日 (水)	浄土宗／浄土礼讃法要
10 月 26 日 (水)	真言宗智山派／智積院朝勤行
11 月 9 日 (水)	時宗／時宗和讃法要
11 月 16 日 (水)	天台宗／法華懺法
11 月 23 日 (土)	真言宗豊山派／大般若転読会
11 月 30 日 (水)	浄土宗／浄土礼讃法要
12 月 14 日 (水)	真言宗智山派／如来寿量品会

・区民ひろば 仏教講座

近隣の区民ひろば西巣鴨で仏教講座を行います。

各日、14 時から 15 時 30 分まで。

10 月 20 日 (木)	写仏 (BSR 推進室間正晃也事務主幹)
11 月 10 日 (木)	うちのお寺は〇〇宗～日本の宗派について～ (塩入法道学長補佐)
11 月 24 日 (木)	写経 (BSR 推進室間正晃也事務主幹)

さざえ堂だより

すがも中山道菊まつりにむけて ～菊栽培報告①～

毎年 11 月には「すがも中山道菊まつり」（主催＝すがも中山道菊まつり実行委員会）が開催され、大正大学もメイン会場の一つとなり、さざえ堂が菊花で飾られます。

江戸中期から明治期にかけて、巢鴨・駒込は植木の一大供給地として多くの植木職人が住み、園芸の里として市民に愛されてきました。植木職人達がそれぞれの腕を競った観賞菊作りが盛んになり、中でも「菊は巢鴨」と知られています。

その地域の歴史と文化を通じて、あじわいのある風情を感じてもらおうと平成 5 年から開かれているのが「すがも中山道菊まつり」です。

大正大学埼玉校舎のある埼玉県松伏町。その松伏の町の花は「菊」です。大学と松伏町の連携の一環として、2 年前から松伏町で育てた菊を菊まつりに飾っています。

今年の菊まつりでも松伏の菊を大学内に飾るべく、8 月 24 日・25 日に松伏町の菊農家 山崎秀夫氏宅で挿し芽の作

業を行ってきました。

まず菊の先端の成長芽の部分を摘みます。（写真①）次に、葉を 2・3 枚残し、余分な葉を落とします。これを「挿し穂」と言います。（写真②）そして、挿し穂を水につけて「水あげ」をします。（写真③）今回は写真①～③の作業を 8 月 24 日に行い、一晩「水あげ」したものを翌日 25 日に挿し芽をしました。（写真④）

厳しい残暑の中、農家の方の細かく丁寧な作業を体験させていただきました。私たちが日ごろ何気なく仏花として飾っている小菊も、そこに来るまでは様々な手が加わっており、色々な条件がそろってこそ存在します。まさに「有難い」ことだと感じました。上手くいけば挿し芽をした菊には、根が生えます。この後もいくつかの作業がありますが、何とか美しい花を咲かせて欲しいと思います。（つづく・・・） (M)

【菊の挿し芽作業】



写真① 摘んだ芽



写真② 挿し穂



写真③ 水あげ



写真④ 挿し芽

今後の予定

9 月 17 日（土）	11 時～12 時	鴨台花まつり（真言宗豊山派）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	3 号館 1 階
10 月 22 日（土）	11 時～12 時	花会式（浄土宗）	鴨台観音堂前
	9 時～13 時	あさ市	南門 けやき広場
	13 時～15 時	お坊さんカフェ「僧話花」	3 号館 1 階

巻頭言執筆者 紹介

山本 雅淑（やまもと まさよし）

大正大学 人間学部 教育人間学科 教授

日本私立大学振興・共済事業団 私学経営情報センター長を経て、平成 25 年 4 月 本学教授就任。専門は大学経営・財務分析。

文科省大学設置・学校法人審議会専門委員、日本高等教育評価機構意見申立て審査会副委員長、大学ポータル準備委員会委員、日本学術振興会大学教育再生加速プログラム委員会委員等を歴任。

巻頭写真

銀杏並木花壇に咲いた彼岸花（曼珠沙華）

